

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197500051		
法人名	有限会社 クリニカ		
事業所名	カーサ シーザーズ2号館 グループホームくらす		
所在地	滝川市栄町3丁目6番12号		
自己評価作成日	平成25年10月17日	評価結果市町村受理日	平成25年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigvsvaCd=0197500051-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様へ安心・安全なサービスが提供できるよう日々の体調観察に配慮し、スタッフ間の情報共有に努めている。その方一人ひとりの「できること」や「できそうなこと」に目を向けて、利用者様が満足感や充実感を得ながらの生活が実現できるよう努めています。また、家族様と一緒に利用者様を支えられるよう、本人様の日常の様子を伝えると共に、家族様からの希望を引き出せるよう、こちらから声かけさせて頂くようにしており、ご家族様との関わりも大切にしている。季節ごとに、壁に掲示する絵や作品を全員で制作することに取り組んでいます。物作りを通して、利用者様一人ひとりの持っている能力が発揮できるよう工夫し、興味や表情がでるように心がけて、当たり前の生活を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は駅前の商業地区に立地しており、4階建の1階に、同じく3年を経た同母体の小規模多機能ホームと共に設置・運営されている。地域は商業地であるが、地方都市にありがちな活気に欠ける側面もあり、地域への取り組みに特段の工夫を要する状況と思われる。その中での当事業所の優秀な点は、原則的な介護の徹底といえる。例えば、当事業所は介護計画に示された短期目標について、その一つひとつを毎日のケアで評価するシステムを実践しており、その積み重ねがモニタリングであるという、ケアの基本を忠実に体现している。介護計画の実体化が日々の生活支援であるとの当事業所の実践過程は、対面介護、個別介護の真髄であり、認知症共同生活という日々の支援に埋没しがちな中で、凜とした介護の姿勢は大いに評価したい。今後についても地域の基幹介護拠点としての役割を、当事業所に期待していきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、施設入口に運営理念を掲げ、理念の実践化に向けて日々のケアに取り組んでいる。	暮らしや地域について独自の理念を設定し、職員全員の共通認識として実践に生かせるように務めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事への参加、事業所主催の「カーサ夏祭り」を開催して、地元の人々や家族等に参加を呼びかけ交流に努めている。	中学と高校の実習の場に当事業所を提供している。町内会や商店街の行事にも参加し、地域との触れ合いに取り組んでいる。	閉塞的な地域となっているが、社会資源である商店街や青年会議所等の連携や協力により、より活発な地域活動になるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人の入居者家族や見学者の話の中で認知症やホームの役割等話し理解を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告と共に参加者からの意見、質問、助言を受けてサービス向上に活かしている。	地域住民や近隣施設、民生委員、包括職員を委員として定期的に開催している。稟議した議案や意見は各委員と家族に配布し、サービス向上に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の地域包括支援センター職員の参加をいただき、連携を図っている。	行政機関とは相談できる関係ができしており、情報交換も頻繁に行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は実施していない。身体拘束が必要な場合には、家族等の理解と納得の上、事業所の工夫や取り組みを示し、報告のうえ実施するよう職員間に周知されている。	身体拘束廃止の研修を職員は受けており、抑制も粗雑さもないケアに務めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で日常生活において入居者に対する不適切なケアを行わないよう認識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見制度を利用している入居者がおり、最低限の知識を学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を交わす際には十分に時間をかけ説明し、理解と納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から、本人の希望や意見等を聞いたり、探ったりしている。また、家族の意見や要望も同様に傾聴し、真摯に受け取り、改善すべきところは、速やかに改善するよう心がけている。	意見箱を設け家族の意見を受ける体制にあり、来所時にも傾聴できるように心がけている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロア会議を定期的に行い、意見や提案を聞く機会を設けている。それを踏まえ、代表者への提言をしている。	職員の意見は活発であり、多面的な方法で意見反映を行っている。また提案の機会を多く設けて、いつでもどこでも意見を聞くように務めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じ、出来るだけ反映させた勤務体制とし、意見を取り入れ、やりがいに繋げるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に出来るだけ参加できるよう、研修内容の回覧を行っている。社内研修は、研修計画にそって実施し、必要であればタイムリーな内容を取り上げを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や市内連絡協議会へ加盟し参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階で利用者の想いやニーズ、生活習慣や病状を把握しており、環境が変わることへの不安を取り除けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接の機会、家族様が何を必要としているか等を十分に傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを共感し、共に支え合い穏やかに暮らせるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との連絡は密に行っており、状態に変化が生じた場合は、随時来設していただき、現状報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関してはキーパーソンと相談しながら慎重に対応し、懐かしい場所や墓参りなどは家族様の協力を得ながら、関係の継続に努めている。	馴染みの関係を断ち切らないように、意識的に努め、墓参りや床屋などの訪問を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者様と馴染みの関係ができるようにカップリングやグルーピング手法を用いて孤立しないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関の紹介や相談を受け入れるなど、継続的な関わりを必要とされる入居者様や家族様に対して、付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から思いを聞き出し、把握に努めている。言葉や表情や仕草などから感じとることができている。	毎日生活を支援していく中で、また家族からの聞き取りを職員で共有し、本人の意向を大事にケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・家族様・担当ケアマネジャー等と面接することで生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察から心身状態や本人様ができることやできないことを把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	独自の書式を活用し、利用者様や家族様の意見・要望を取り入れながら介護計画を作成している。また、概ね3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行ったり、利用者様の状態変化に応じてその都度、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は本人や家族の意向に配慮し、3ヶ月を目処に立案している。また日々の介護を通して計画を実践することで成果を確認し、今後のケアに生かせるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活から個々の特徴や変化を記録、申し送り等で情報共有し、介護・介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や外出・外泊等、利用者様や家族様のニーズに対応できるよう、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	家族と本人の希望にそってかかりつけ医を決定し、定期受診を通じて積極的に情報交換をしている。	本人と家族の意向に沿って主治医を決めており、定期の受診も同行している。また月に一度の往診も活用しており、医療面の安全を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していないが、必要に応じて往診医や訪問看護師が来設した際、気づいたことや日常の様子等の情報を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は職員が顔を出し、その都度状態の報告を受け、退院の目処など調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応については、本人・家族に説明しており、入居後は、主治医の指示の下、家族と情報共有して対応している。	重度化した場合のケアについて契約時に説明し、利用者と家族の意向に沿えるように努め、職員も研修を通して、重篤時のケアについて学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練は年に二回、夜間想定を含んで実施している。その他、施設独自の緊急対応マニュアル、緊急時の連絡網を作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い安全に誘導できるようにしている。	年に2回、火災想定で避難訓練に取り組んでいる。火災以外の災害、地震や停電等についても研修を実施し、対応できるように努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれが心がけているが、突発的な出来事等の時は対応しきれない時もある。	法人として接遇に取り組んでおり、会話の仕方や接する態度に気を配りながら、生活を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自然に思いや希望が表現できるような声かけや表情、仕草等にも十分に注意し、自己決定しやすいよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様々な声かけや誘いによって各種の活動に参加してもらっている。参加はあくまでも任意であり、無理強いにならないよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れ等は着脱時にさりげなく交換するよう心がけている。また、定期的に訪問理容を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けや食器洗い、調理の補助などを行ってもらい、利用者様の持てる力を発揮していただき、会話を楽しみながら食卓を一緒に囲んでいる。	食事を一層楽しめるように利用者が、輪番により「いただきます」の発声をしており、全員が集っての明るい食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を把握し、状況に応じた介助を行っている。主治医との連携にもその情報を活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施と就寝前には義歯を預かり洗浄剤に浸け保管させていただいている。必要であれば、歯科医院と連携をとって治療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の観察から排泄パターンや習慣を把握し、できるだけトイレで排泄できるよう声かけや支援をしている。	トイレでの排泄となるように、排泄サインの把握に努め、時間誘導も織り交ぜながら排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食事内容、持病などを考慮し、運動量を検討し実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助が必要な方に関しては、身体状況に応じて順番等を考慮している。	週に2回以上を目安にして、入浴に取り組んでおり、拒否があった場合でも無理強いすることなく、楽しい入浴となるように個々を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動により、生活リズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を把握できるよう個別ファイルに綴じている。変更があった際は通院報告書で情報共有し、その後の様子観察にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・洗濯物たたみ・テーブル拭きなど、入居者様の心身状態や生活歴に応じた役割や楽しみごとの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩を始め、各種行事においても暖かい季節では特に外出行事を取り入れている。その他にも町内会の祭り、催し、ドライブ、その他の活動の支援に努めている。地域の人々との協力関係は、まだこれからの課題である。	近所への散歩は積極的におこなっており、季節のドライブやお祭りへの参加等、家族の協力も得ながら取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や状態を見極めながら、少額の金銭管理を行ってもら方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望と状態に応じ、事務所から電話をすることができる。また、ハガキの返信や年賀状等を送る機会を持つようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は共有部分、居室共に毎日しており、温度調節も適切に管理されている。天気の良い日は窓を開けて、外の風を取り入れたりなど配慮している。	食堂や居間は、採光に優れており明るい共有空間となっている。装飾も華美ではなく落ち着いた雰囲気を感じられ、利用者本位の工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様がそれぞれの居場所を見つけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、なるべく自宅で使用していた物や思い出の品を置いてもらうよう話している。	居室には馴染んだ家財も持ち込まれており、写真や手紙も飾り付けられ、心地の良い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできること、分かることを十分に把握し、落ち着いた生活ができるよう環境づくりをしている。		